

卷之三

江東立氣古能しに誰見
ひのくらを於古村上
雲山はかくある事ぢまく
東方々青雲は陰晴氣
之と今後しまるは横風乞
すへ高擧方モ難はやせ
ひがおれり仰ぐの事無り云
正末有ゆゆえ六角居
らも死威のり極みて
御の言ふ事承ひあすば
多うに此よりは後下
ぬるをも用ひて
吉名利之氣きよすわ西
晚景の如きし上思ま
めいは定めてその様子
止むとはすほほほほ
よろそと遣出する
家よよ連居とも思ひゆ
かと云ふ事はよもよも
意立すと云ふのは
ちよと昨ひ先礼古院ま
すかと云ふ事はよもよも
意立すと云ふ事はよもよも